

# 令和二年度入学に寄せて

新入生の皆さん、  
ご入学おめでとうございます。

まずは、今年は新型ウイルスという問題が発生し、感染防止の為式典が中止となりましたことをこの場をお借りし、お詫び申し上げます。

皆さんには、ここでお伝えしたいことがあります。

数年前の入学生、つまり、皆さんの先輩たちにも伝えたことですが、私自身、高校生くらいの頃に誰かにこういったことを言つてもらえていたら、もう少し自分に自信が持てたし、コンプレックスで苦しまなくとも済んだかもしれない、と思うのであえて再度お伝えさせていただきます。

それは「あなたという人間は成長の途中である」ということです。「私はこうだ」と決めつけないで欲しいのです。生まれた時には歩くこともしゃべることもできない、でも、お先真っ暗とはならないでしょう。それが大人になるにつれて、自分で自分はこの程度だと、決めつけてしまうようになるのです。

「私は人見知りなんです」という人が多いですが、誰が決めたかというと、誰でもなく、ただ、自分でそう思っているだけだつたりします。今は人見知りでも来年には直るかもしないのです。だから、決めつけることをやめて、自分は成長、変化の途中だと思ってください。信じてください。

その為にはコツがあるのです。  
それは、人と比べないということです。

比べるものがあるとしたら、それは昨日の自分です。

昨日の自分より今日の自分、今の自分より数ヶ月後の自分が前に進んでいればそれでいいのです。

私は十年以上本校やグループ校で皆さんのがんばり先輩たちに接してきましたが、その中でたくさんの成長を見届けてきました。

今でも忘れられない生徒の一人に、K君という生徒がいました。

彼は入学当初は、友達もなかなかできず、人が苦手だと言っていました。それでも毎日登校してくれていたのですが、

そんな彼が、キャンパスで演劇祭を実行することになった時に、重要な役柄に抜擢されたのです。

毎日遅くまで稽古していましたが、

彼のセリフにとんでもなく長いものがあつて、なかなかこれは覚えるのは難しいだろう、と周りの誰もが思っていました。ところが、そんな皆の心配をよそに、

彼は本番では見事にその長台詞を言い切ることができたのです。

それからは軽音に入つてギターを弾いたりと、見る見るK君の行動と表情は変化して行きました。

そのK君が、通信制高校の合同説明会で学校代表として二〇〇人くらいの観客を相手に体験談を話してくれたのですが、その内容は今でも忘れられません。

その時にK君は

「僕は中学まで人に馬鹿にされて来て、友達も一人もいなかつた。僕の友達はゲーム機でした。

そして、授業にもついていけないので、いつも学校では寝ていました。そんな僕の手にいつもあつたゲーム機はいつの間にかギターに変わり、

授業を聞く気にもならなかつた僕が

今は進学に向けて一生懸命勉強しているんです。」と目を輝かせながら話してくれたのです。

他にも、事例を挙げたらきりがありません。

そんな、生徒の皆さん一人ひとりの成長の物語が、これから始まるのです。

保護者の皆様も、どうぞ、お子さんを「成長途中」という視点で応援してあげてください。

赤ちゃんの頃、よちよちと歩き始めたお子さんを、

「頑張れ、もう一步、もう一步！」

と、一生懸命応援してあげていたあの頃を、どうぞ思い出してください。

最後になりましたが、改めまして、新入生の保護者、並びに関係者の皆様、  
この度は本当におめでとうございます。

私たち教職員は生徒の目標達成の為に、全力を尽くして参ります。

が、到底、学校だけの力で到達できるものではありません。

どうか、これからも、陰になり日向になり、見守り、支えてくださいますようお願い申し上げ、私のご挨拶とさせていただきます。

令和二年四月

鹿島朝日高等学校

校長 中島佐代子

